苗場山麓ジオパーク

振興協議会だより

Vol. 29

［発行日］平成 30 年 2 月 23 日
［発　行］苗場山麓ジオパーク推進室
［お問い合わせ］025-765-1600

雪国ジオパークフォーラムとは、日本ジオパークの中でも雪の降る地域に位置するジオパークが集い、情報交換や意見交換をする機会です。第３回となる今回のテーマは、「雪国でのジオツーリズムのあり方、様々なアクティビティとの連携や可能性」です。１日目はお２人の専門家による基調講演とアウトドアやスポーツ、教育活動に携わる方々によるパネルディスカッション、２日目はカンジキやスノーシューをはいてニュー・グリーンピア津南展望台へ散策するジオツアーを予定しています。専門家や外部の方々などの視点で苗場山麓について聞くことができる機会です。ぜひ町民のみなさんもふるってご参加ください。

開 催 日：平成30年３月22日（木）・ 23日（金）
場　　所：ニュー・グリーンピア津南

●22日 フォーラム 13:00-17:00　無料・自由参加

＊基調講演

「オリジナルのジオパークモデルを作ろう
―日本のジオパークは急速に発展してきたが、まだまだやることは多い―」
佃 栄吉　産業技術総合研究所理事・地質調査総合センター代表（日本地質学会）・ＪＧＣ委員

「観光学からみたジオパーク」
舛谷 鋭　立教大学観光学部教授

＊パネルディスカッション

「ジオパークと観光アクティビティとの連携」

コーディネーター　フジノケン＊雪国観光圏ブランドマネージャー
パネラー　島崎晋亮＊NPO法人信州アウトドアプロジェクト代表／岩舘広彬＊株式会社日本アウトドアサービス代表／山口隆＊NPO法人白山しらみね自然学校ガイド／山岡 勇太＊立山黒部ジオパーク専門員／仲野浩平＊苗場山麓ジオパーク専門員

◇フォーラム後　**ゆめ色スカイランタン打ち上げ体験**：参加費 500円　**交 流 会**：参加費 6,000円

●23日 ジオツアー 9:00-11:30　参加費2,000円
カンジキやスノーシューをはいて谷の展望台へ！石落しや見玉の崩落地形を眺望

※詳しい内容や時間につきましては、津南町・栄村役場、観光協会、こらっせ、なじょもん、震災復興祈念館絆、津南町文化センターに設置してあるチラシをご覧いただくかジオパーク推進室までお問い合わせください。

ジオパーク推進室☎025-765-1600

津南小学校と栄小学校の4年生がジオパークを通して交流

津南小学校・栄小学校4年生は、苗場山麓ジオパークについて学習を進めています。

津南小学校の4年生は、津南町と栄村にまたがる苗場山麓ジオパークについて現地での見学や調べ学習を行いました。夏休みには、家族でジオマップをもって現地を訪れ、絵や写真、文章でその感動を表現しました。そして、「栄村ジオサイトの認知度調査」を行い、そこから、苗場山麓ジオパーク新聞を作り、エリア内の各所に貼って、認知度向上の取り組みを行っています。平成29年12月19日には、栄小学校を訪れ学習交流を行い、親睦を深めました。栄小学校の4年生は、クイズ形式の発表を行い、津南小学校4年生は、ジオサイトを巡った動画を披露したそうです。

1月26日には、栄小学校4年生が農と縄文の体験実習館を訪れ、展示されている岩石や化石、火焔型土器などを見学し、3月2日に行われる合同学習・「苗場山麓ジオクイズ検定」に備えて学習を行いました。この学習会では、両校の子ども達が一緒に歌う苗場山麓ジオパークＰＲソング「Takaramono」の栄村バージョンの発表もあります。ぜひ、子どもたちが作った検定問題や新しい歌を聞きに来ていただければ幸いです。

第１回苗場山麓ジオパーク民学官会議開催

苗場山麓ジオパーク活動は、学術的背景に立脚し、より広範な地域住民と共に保全と活用を「考えて実践」することが第一義です。よって行政主導の活動というよりも、住民代表者と学術関係者、そして行政としての事務局が膝を合わせて車座的にフランクな話し合いから生まれてくる活動指針が大切と考え会議を企画しました。すなわち、市民（citizen）、学術（academic）、事務局（public）の頭文字を取って「ＣＡＰ（キャップ）会議」です。

第１回ＣＡＰ会議は、平成29年12月18日、津南町役場大会議室で開催しました。振興協議会会長の上村憲司はジオパーク活動の実践的成果として、子供達が作詞・作曲した『Takaramono』の歌声に触れ目頭を熱くしながら「ジオパークが果たす教育の役割の大きさ」に触れ、「地域の誇りと自信の醸成」が未来の津南を創ると評価しました。住民からは「自らの子供の発言で目が覚めた」、なぜなら「自分らは地域の誇りや自信なんて学ばなかったが、今の児童は郷土愛と誇りに満ちあふれて、希望が湧いた」との発言を受けました。しかしながら、「子供たちからの波及はあるであろうが、まだまだ住民の感心は薄い。もっと情報喚起が必要であり、多くの住民の触れる所にジオパーク掲示をする必要性がある」との指導を頂きました。住民の意見を受け、学術指導委員会の先生方からは「苗場山麓ジオパークにしかないものをピックアップしてアピールする必要性」が指摘される一方、「ボトムアップ型の住民参加」を誘導し「今まで以上に地に足の着いた活動を、自信を持って進めて欲しい」と指導を頂きました。さらに、「パンフレットの時系列化などの見える化」や「苗場山麓の資源を系統的に整理し、学習内容や指導要領と結びつけながら郷土教育に生かしていく」ことが必要なことであり、会長が指摘した「郷土学習のクオリティ」を維持し活動することで「市民学芸員」が生まれ、各学校で「ジオ学習」や「縄文学習」が『津南学』の裾野を広げることになる」との指摘を受けました。苗場山麓ジオパークのポテンシャルの高さが評価され、それを生かした郷土学習が地域づくりの源になると確信した第１回ＣＡＰ会議でした。

第４回苗場山麓ジオパークガイド認定検定（初級）

第４回苗場山麓ジオパークガイド認定検定（初級）を実施します。実際ガイドはできるか分からないけれど、苗場山麓に興味があるという方も大歓迎です。検定料は無料、どなたでも受検可能です！

苗場山麓ジオパークガイド認定検定（初級）

実施日時：平成30年３月24日(土) 13:30～14:30（13:00開場）
会　　場：農と縄文の体験実習館なじょもん
申込締切：３月９日(金) 17:00まで　　※郵送の場合は３月９日当日消印有効
申込方法：所定の用紙に必要事項をご記入の上、ファックス・持参・郵送にて申込みください。
所定用紙は、栄村・津南町役場、なじょもん、津南町文化センターなどに配置してあります。
また、苗場山麓ジオパークホームページからダウンロードすることもできます。
申 込 先：苗場山麓ジオパーク推進室　電話025-765-1600　ファックス025-765-2299
検 定 料：無　料　お問合せは、上記ジオパーク推進室までお電話ください。

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57の見どころを随時紹介していきます

勘五郎の滝

所在地 栄村　**種別** 地質

高山沢火砕流堆積物によって作られた滝です。高山沢火砕流堆積物は、鳥甲火山第Ⅱ期の活動の火砕流堆積物です。暗褐色をした安山岩の火山砕屑物で、溶結し層状となっている部分もあり、一部は水底に堆積している事を示しています。

切明西方の滝

所在地 栄村切明　**種別** 地質

切明周辺には、緻密で平滑な節理が発達する石英閃緑岩が、結束層の変質火山岩を北北西ー南南東方向に貫入しています。この石英閃緑岩にかかる、鈴木牧之が好んだ滝です。

長瀬新田遺跡

所在地 栄村長瀬新田　**種別** 文化

長瀬新田遺跡は、志久見川左岸、標高約520mの朴ノ木坂段丘面に位置する縄文時代の遺跡です。この遺跡からは、5,500年前の火焔型土器が出土しており、当時の集落が形成されていたと考えられます。さらに、この資料は、津南町の縄文時代の遺跡や文化、当時の人々との繋がりがあった事を示しています。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

現在ジオパーク推進室では、調査研究および整備をすすめるうえでジオサイトの見直しを行っています。その重要性から新たにジオサイトに登録するもの、安全面を考慮しジオサイトからはずすものなどありますが、まとまり次第、ご報告していきます。

2月初旬、3月22・23日に開催される「雪国ジオパークフォーラム2018」のＰＲ写真撮影のために、見玉公園へ行きました。スノーシューを履いて奥へ進むと、雪化粧をした石落しを望むことができます。冬は辺りがより一層静かで、石がごろごろと落ちる音がよく聞こえ迫力がありました。また、雪が積もらなければ行けない場所があり、今の時期にしか見ることの出来ない絶景があります。運が良ければ野生動物に逢えるかもしれません。皆さんもぜひ、冬の石落しに足を運んでみて下さい。

第３回ガイド研修

去る１月28日､昨年度に引き続き､日本ジオサービス㈱代表取締役目代邦康氏からご講演いただきました｡参加者は33人でした｡講演のテーマは､｢持続可能な開発(発展)･社会･学習とは｣です｡持続可能な開発とは､開発と自然保護とを対立関係でなく､共存させる形で進める考え方です｡また､ジオパークの会議等でよく聞くようになってきたＥＳＤ＊という文言についての説明と､ＥＳＤの話題の前に､①環境と開発に関する21世紀へ向けての行動計画(アジェンダ21)､②20世紀の豊かさの変遷､③地球環境問題としての生態系の危機､④グローバリズムとローカリズム､⑤環境･経済･社会のバランスがとれた開発､⑥地学的資源の内容､⑦持続可能な開発の17のゴール等の説明を受けました｡

このように多方面から持続可能な開発を支える教育について説明を受け､ＥＳＤについてのもやもやが､少し消えてきました｡結論として､広い視野で考え､それぞれの場所で行動する(Think globaly ,act localy)ことの大切さを感じた90分でした｡講演後の佐渡ジオパーク等の再審査のコメントは､当苗場山麓でも大いに参考になりました｡

＊ＥＳＤ(Education for sustainable development)の略です｡邦訳では持続可能な開発のための教育のことをいいます｡

新潟ジオ学／教育旅行誘致モニターツアー

糸魚川世界ジオパーク、佐渡ジオパークと苗場山麓ジオパークでは新潟県の助成をうけ、昨年度に引き続き共同事業を展開しています。今年度はジオパーク活動の中で大地の成り立ちなどを学ぶ教育的要素を活かし、首都圏の高校などの修学旅行を誘致したいと考えています。３ジオパークでは「新潟ジオ学」という修学旅行誘致用のパンフレットを作成。修学旅行生が新潟のジオパークでどのような体験ができるのかを学校や旅行業者に紹介しています。

また、このカタログを元に旅行事業者や教育関係雑誌など２泊３日のモニターツアーを実施し、３ジオパークのそれぞれの魅力を体験いただきました。実施日は１月17日～19日、１日目に佐渡に泊まった一行は２日目の午後なじょもんに到着。苗場山麓ジオパークについてのプレゼンのあと、スノーシューを履いて縄文ムラを体験。バスで移動し、川の展望台から河岸段丘を見学していただきました。その後栄村に移動し、森宮野原駅の 7.85 ｍ積雪標柱や震災復興祈念館絆およびスキー修学旅行のアピールのため、さかえ倶楽部スキー場を紹介しました。その夜はニュー・グリーンピア津南に泊って頂き、スカイランタン体験と観光懇談会を実施しました。翌朝には糸魚川に向かって移動しましたが、各参加者は苗場山麓を初めて訪れる方が多く、雪国の観光の魅力を実感していただけたと思います。

全国研修会in箱根ジオパーク

毎年日本ジオパークネットワークで開かれている全国研修会に参加しました。今回の研修のテーマはＥＳＤ（持続可能な発展のための教育）です。研修は２月１・２日の２日間かけて行われ、１日目はＥＳＤ自体についての講義や、グループワーク。２日目は箱根ジオパークの中で３つの地域に分かれ、フィールドワークを行いました。

私のいたグループでは南足柄市矢倉沢地区に向かい、集落歩きからの地元学を基本として、ＥＳＤに関した教材作りを行いました。本来教材作りは膨大な時間をかけて行うもので、さわりだけとはなりましたが、知らない集落を歩き、集落の魅力やジオ的な要素を、ガイドを含めた住民に聞き取りをしながら集め、教材となるようなストーリーを作っていく作業は大変勉強になりました。苗場山麓でもガイドや先生向けにこのような研修を行い、作ったストーリーを基にお客様や、子供たちに楽しく学んでもらうことができるのではと感じました。

苗場山麓ジオパークは｢未来に何を残していくか｣考える場でもあります。ＥＳＤを学ぶことだけで終わらないよう、皆でこの雪のふる里を持続させる方法を考え、実行していきましょう!